

慰めなる神の時

(イザヤ40・1～8)

一、イザヤは何人いたか

今日「イザヤ書」と言えば、一人のイザヤが書いたとして解説している書物は、非常に少ないです。私自身がどのように受け止めているかについては、これまでに幾度か語りましたが、非常に悩みました。「イザヤは一人ではあり得ない」と考えた理由は、44章と45章にキユロスの名が出てくることでした。ペルシア帝国アケメネス朝の実力者であつた王の名です。一方で、預言者イザヤは紀元前8世紀、南王国ユダの預言者です。預言者イザヤとキユロス王の間には約200年の隔たりがあり、その間に北王国イスラエルがアッシリア帝国によって滅亡し、南王国ユダもバビロン軍によつて破壊され、バビロン捕囚という憂き目がありました。ところがイザヤ書44章28節、また45章1節、2節に「キユロス」の名が出てまいります。

さんざんに悩んでいた時のことです。カトリックのフランシスコ会訳聖書に書かれている短い解説によつて、目からうろこが落ちたような気持ちになりました。フランシスコ会訳は、本文こそは第一イザヤ、第二イザヤ、第三イザヤ

に分けていますが、解説部分にこういふことばがありました。(略)現在われわれの手元にある書は、恐らくイザヤ自身が書いたものから始まり、次々に書かれて一部改訂された資料を用いてある形のものを作り出した、一人の編集者著者による作品とする説。今日では「この」説に属する見解を受け入れる学者がますます多くなっている。と。こう理解しますと、キユロスに関する預言もイザヤが預言したことになります。ただし、イザヤが預言した時点ではキユロスの名は入つておらず、もう一人のイザヤではなく、イザヤの系譜を継ぐ後の弟子たちが書き入れたものであると、考えられるわけです。

二、慰めなる神の時

40章1節を見てまいります。「慰め

よ、慰めよ、わたしの民を。——あなたがたの神は仰せられる——」とあります。これは第「イザヤ、すなわちもう一人のイザヤのことばではなく、紀元前8世紀のイザヤのことば」です。「そういう立場をとる」ではなく、正真正銘預言者イザヤのことばであると、私は考えます。イザヤは、南王国ユダの、主への反逆のゆえに、自國が滅びると示されました。同時に、ユダが回復すると示されていました。もちろん全員が回復する、すなわち主に立ち返るのではなく、一部の「残りの者たち」です。こ

うして、主は預言者たちに、一様にあるメッセージを語っています。それは、主は反逆者たちをさばかれるものの、いつまでもではない、という預言のことです。やがてイスラエルが回復する時が来るというメッセージです。「慰めよ、慰めよ、わたしの民を」は、まさしく、主の慰めの時が来たという預言です。「このことばを語られたのは、たしかに主ですから、1節2行目でイザヤは、「あなたがたの神は仰せられる」と語っています。続いて2節です。「エルサレムに優しく語りかけよ。これに呼びかけよ。その苦役は終わり、その咎は償われている」と。そのすべての罪に代えて、「倍のものを主の手から受けている」とあります。まさしく主はいつまでも怒つておられない神です。3節、4節は、不思議な神の働きです。「荒野で叫ぶ者の声がする。「主の道を用意せよ。荒れ地で私たちの神のため、大路をまつすぐにせよ。すべての谷は引き上げられ、すべての山や丘は低くなる。曲がったところはまっすぐになり、険しい地は平らになる。」とあります。神は、歴史の隠れたところで働いておられます。3節1行目の「荒野で叫ぶ者の声がする」がまさしくそうです。このことばは、だれが語っているのでしょうか。6節の「叫べ」と言う者の声がする」とも重なりますが、御靈の声、聖靈の声です。6節を見てまいります。

三、私たちへの適用

40章31節に「しかし、主を待ち望む者は新しく力を得、鷲のように、翼を広げて上ることができ。走つても力衰えず、歩いても疲れない。」とあります。私たちは、隠れたところにおられる神を信じ、主を待ち望む姿勢が大切です。

「叫べ」と言う者の声がする。「何と叫びましようか」と人は言つてあります。が、「人」とは、だれなのでしょうか。御靈であり、聖靈です。続いて2行目に「何と叫びましようか」と人は言つてあります。が、「人」とは、だれなのでしょうか。御靈と新改訳旧版、新共同訳、聖書協会共同訳は「私」、すなわち「預言者イザヤ」と理解しています。新改訳2017だけが「人」としていますが、これが口語訳と新改訳旧版、新共同訳、聖書協会共同訳には「なるほど」と思われる理解かと思います。御靈が語る「叫べ」と言う者の声に応答して、「何と叫びましようか」と応答する人が、イザヤに限らず、どこに応答する人が、イザヤに限らず、どこにでも居るということです。6節3行目から8節までより、この世のものはすべて一時的であり、永遠に変わらないのは神のことばであり、神のことばなるキリストの善き知らせであると、聞くことができます。